

熊本地震で被災された皆様にお見舞い申し上げます

熊本地震によって、厳しい被災生活を余儀なくされている皆様に心からお見舞いを申し上げます。この震災では学校法人東海大学にも甚大な被害がありました。たかなわ会の会員やそのご親族にも被災された方がおられると思います。たかなわ会では、母校と足並みをそろえて支援活動に取り組む所存です。一日も早い復興をお祈りしております。



定時総会を開催しました（2015年5月26日、東海大学校友会館）

INFORMATION

●たかなわ会総会

日時：2016年5月28日(土) 午後12時～2時
会場：東海大学校友会館
東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル35階
電話：03-3581-0121(代表)
引き続き同場所にて懇親会
会費：3,000円

●東海大学同窓会東京ブロック南部支部納涼会(協賛)

日時：2016年8月5日(金) 午後6時30分～
会場：東海大学校友会館
会費：6,000円

●第8回高輪建学祭

日時：2016年11月1日(火)～3日(木・祝)
午前10時～午後5時
会場：東海大学高輪校舎

●たかなわ会 第4回高輪カミングデー

日時：2016年11月3日(木・祝) 午後1時～3時
会場：東海大学高輪校舎4号館地下1階 コメドール
会費：3,000円

■題字は、東海大学短期大学部初代学長・小船井敬吉先生がお書きになったものです。

2016(平成28年)
SPRING

高輪
だより

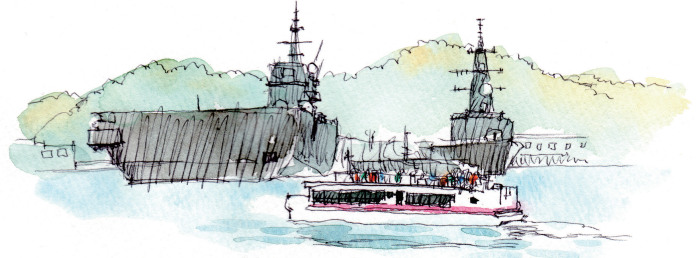
第44号

同窓会報

電波塔



YOKOSUKA軍港めぐりの様子



日水海運の冷凍運搬船北幸丸(2,500トン)は、南洋諸島(パラオ、フィジー、サモア)から冷凍した鰹・鮪を集荷してロサンゼルス港に陸揚げするため、1970年1月東京の晴海を出航しました。ロス港の岸壁には大きな缶詰工場があり、数百人の女工さんが働いていました。仕事帰りの女工さんが本船の周りに大勢集まって来て、乗組員と会話を楽しんでいました。

一泊二日で荷役終了後、空船になった本船はロス港を出航して、カリフォルニア沖を探検しながら北上、ベーリング海域で操業中の玉栄丸船団と合流しました。そこで冷凍母船玉栄丸(12,000トン)からタラバ蟹や大鰯(カレイに似た北海の魚)など約1,000トンの冷凍魚を受け取り、探検しながら南下、東京の晴海に帰港しました。

当時、本船が辿った航路は、カリフォルニア沖からアリューシャン列島沿い～千島列島沿い、そして三陸沖にかけては鯨の回遊経路になっており、寒流と暖流が合流する三陸沖では大きな潮目形成されて、今も豊かな漁場になっています。

1850年代、アメリカは700隻もの捕鯨船団を、この海域に投入して操業していました。その船団の物資補給を目的とした寄港地確保のため、アメリカ艦隊の司令官ペリー提督が率いる2隻の蒸気船と2隻の軍艦が浦賀沖に来航しました。そして、アメリカ大統領の手紙を江戸幕府に差し出して開国を迫ったのです。ペリーの強い態度に押された江戸幕府は、翌年、久里浜でペリーとの間に「日米和親条約」を締結しました。

これにより鎖国は終わり、日本は近代社会へと

向かう第一歩を記したのです。つまり、横須賀は文明開化の発祥地だったのです。

以来、横須賀には西洋技術が導入されて、製鉄所や造船所ができ、その技術が全国に広まりました。

日清・日露戦争～第二次世界大戦にかけて、横須賀、呉、佐世保、舞鶴は日本の軍港として幾多の艦船を保守・管理してきました。特に横須賀は世界屈指の軍港として日米が重用しています。

現在、横須賀の米海軍基地周辺には広大なアメリカ租界が存在し、約2万人が暮らしています。そして彼らは、付近の商店街や娯楽施設などに繰り出してショッピングや娯楽などを日常的に楽しんでいます。

米軍は日米親善のために思って、いろいろな催事を図ってくれます。春・秋には基地を開放して、花見や艦艇の見学などに招待してくれます。12月には日米合同で壮大なゴスペルクワイアが開催されます。市の催事などには、第7艦隊の音楽隊が出演してポップスなどを演奏してくれます。

ドブ板通り付近の商店街ではドルで買い物などできます。遊覧船による日米軍港めぐりは、超人気の観光スポットになっています。

戦後、米軍は沖縄をはじめ日本全国の要所に基地を確保して、トラブルを抱えながら日米の安全保障の任に当たってきました。

ペリー来航以来160年余にわたり、日米は鯨の回遊経路で結ばれた、客観的な親子関係をつくりながら発展してきたように思われています。

従って、基地問題は、日米にとっては、答えのない永遠の研究課題なのかもしれません。(K)

たかなわ会同窓会報 高輪だより
第44号

発行日 2016(平成28年)5月10日
発行所 たかなわ会
住 所 〒227-0033
横浜市青葉区鴨志田町62-1
東海メンテナンス株式会社
電話番号 045-962-3006
FAX番号 045-962-3533
takanawakai1937@yahoo.co.jp
http://takanawakai.jp

www.kohoku.co.jp

わたくしたち港北出版印刷株式会社はつねに時代を先取り、情報のプロデューサーとして、確かな技術と知識をもってお客様のニーズにお応えします。

港北出版印刷株式会社

本 社	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7	TEL.03(5466)2201(代表)
甲府営業所	〒400-8558 山梨県甲府市南門外155 駅前通(新甲府駅前通)	TEL.055(244)0466(代表)
関西事務所	〒530-0001 大阪府大阪市北区東淀川4-4 プラザビル2F	TEL.06(6341)1506(代表)
府 中 工 場	〒183-0026 東京都府中市南町5-38-12	TEL.042(352)7760(代表)
田 無 工 場	〒188-0014 東京都西東京市芝久保町5-1-24	TEL.042(482)6485(代表)
伊勢工場	〒188-0014 東京都西東京市芝久保町5-1-24	TEL.042(482)6599(代表)
東京工場	〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-4-2 横浜電機(株)内	TEL.0422(52)5697(代表)
茨城工場	〒153-0061 東京都目黒区中目黒1-8-8 目黒Fビル	TEL.03(5794)1050(代表)